

## ⑥都市景観・ガイドライン等に関する研究調査

### ■総合的な景観形成のためのコラボレーション手法検討

〔財〕udc／国土交通省〕2006

地域の景観は、道路、河川、公園等の公共施設や民間の建築物など様々な構造物とその背景となる自然によるトータルデザインとして構成されるものであり、関連事業が各々のガイドラインを踏まえつつ、有機的に連携することが重要となる。本調査は、景観法において具体的に示されていなかった景観行政団体、公共施設管理者、専門家等の事業関係者、および地域住民によるコラボレーション手法を活用した景観形成の取り組み等に関して、事例の収集、考察を行うことで、総合的な景観形成における多様な主体のコラボレーション手法について取りまとめを行ったものである。

a-1) 施設+つくる		
■拠点整備	1. 帯広駅周辺地区整備(帯広市)	: 都市計画面のコーディネートによる駅周辺拠点づくり
	2. 日向市駅前広場整備(日向市)	: 事業間のデザイン調整による駅を中心とした拠点づくり
■ネットワーク整備	3. 環長崎湾地域7ヵ所7ヵ所(長崎市)	: 個別施設のデザイン調整によるウォーターフロントづくり
	4. 白石メディアポリス(白石市)	: 都市プロデューサー制による一連の公共施設整備
■単一施設整備	5. 新潟駅前広場(新潟市)	: 市民参加による駅前広場の計画づくり
	6. 桑名市外地区整備(桑名市)	: デザイナーによる外観、緑地の修景
	7. 津和野川ふるさとの川整備事業(津和野町)	: デザイナーのデザイン及び整備による川沿い空間の魅力づくり
	8. 益田市歴みち事業(益田市)	: 文化財を活かしたまちづくり
a-2) 施設+活かす		
■「ポータル」の活用	9. 「水の都ひろしま」構想(広島市)	: オープンカフェ等による水辺の賑わい活用
	10. 新町川・東船場「ド」(徳島市)	: ポードウォーク設置とバラロショップによる水辺の賑わい活用
■建物の活用	11. 門司赤煉瓦ブレイス(北九州市)	: 官民協働による歴史的建造物(旧工場)の活用
b-1) 街並み+つくる		
■既存市街地の改善	12. 門前港レトロ地区の環境デザイン(北九州市)	: 計画・設計者の継続的な関与による港を中心とした景観づくり
	13. 街中がせせらぎ事業(三島市)	: 市民、企業、行政の協働による河川を活かしたまちづくり
	14. 横浜みなとみらい21(横浜市)	: 地権者を中心とした街づくり協議会による土地利用や景観の誘導
■新規市街地の建設	15. 小布施町並み修築(小布施町)	: 建築家を中心とした歴史を活かした街並みづくり
	16. 昭和の町(豊後高田市)	: 地元、行政の協働による「昭和の町」づくり
	17. 両門景観条例(下関市、北九州市)	: 両市に挟まれた海峡を中心とした景観づくり
	18. 大丸地区区画(町)まち(千代田区)	: 地元企業を中心とした都市景観づくり
b-2) 街並み+活かす		
■歴史的町並みの保全	19. 金山型住宅(金山町)	: 伝統的工法や地場産品を活かした「金山型住宅」による景観づくり
	20. 越後妻有「アト」の整備事業(十日町地域)	: アートを活用した地域活性化

各事例の取り組み概要



事例調査の例

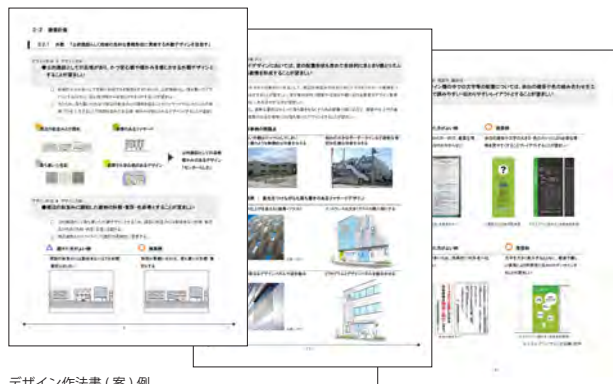
担当: 中野、加藤、田邊、池田、笠間

### ■屋内式自転車等駐車場デザイン作法書(案)検討

〔財〕udc／(公財)自転車駐車場整備センター〕2011-2014

本業務は、全国で自転車等駐車場の建設・管理運営を行っている(公財)自転車駐車場整備センターが、デザイン面における質の向上を図るために必要な留意事項を「デザイン作法書(案)」として取りまとめることを目的としたものである。研究対象は2階以上の建物式のものに限定し、周辺の街並みとの調和や自転車駐車場整備センターらしさを表現するための作法を、計画・設計・運営の各段階において検討した。

2013年度には、実際に整備がされるモデル駐車場(調布北第1自転車駐車場)を対象として、今後のセンターの標準デザインとすることを目的とした、利用者が分かりやすく、デザインの的にも優れているサインデザインを検討した。



デザイン作法書(案)例

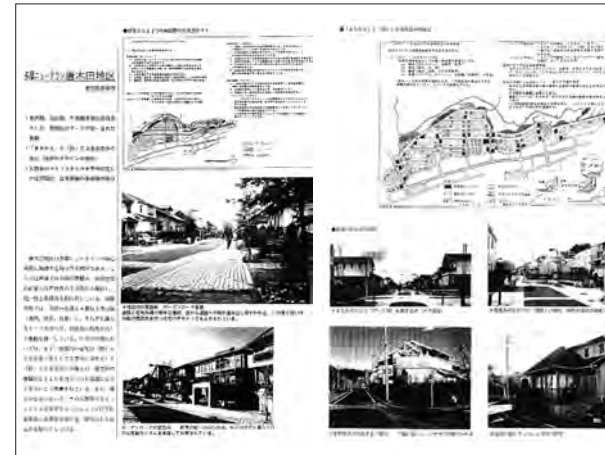
デザイン研究会委員長・吉田慎悟、委員・田中一雄、中野恒明、鈴木 敦 事務局: (財)udc

担当: 中野、大木、長谷川、光賢

### ■住宅市街地における街並み形成の研究

〔財〕住宅都市工学研究所／建設省〕1996

この研究調査は「住宅マスタープラン」の関連調査として、街並み形成と住宅市街地に関する基礎的研究を行ったものである。アプルは街並みづくりの試みをしてきた各地の集合住宅地、戸建住宅地、修復型街並み整備、HOP E計画等の様々な事例研究を行うとともに、研究会(大野秀敏座長、西村幸夫、岩田司、隈研吾、中野恒明、建設省担当者)による4回のフォーラムを経て、全体の研究報告書としてとりまとめた。報告書は各委員の寄稿による総論と事例編とで構成されている。



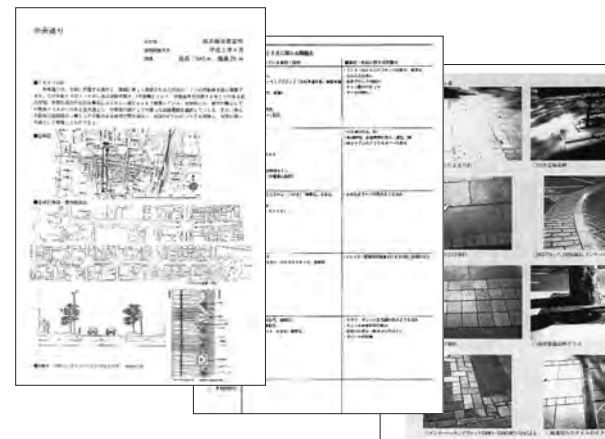
事例研究シートの一部

担当: 中野、浦岡、岩村

### ■都市の景観を構成する素材材料研究

〔財〕udc〕1991-1997

財団の自主研究の受託である。各地で様々な景観関連事業が行われ、そこでは多くの素材や材料が使用され、それぞれの目的や用途に応じた多種多様な材料供給、使用が展開されてきている。本研究はそれらの利用実態や事後の維持管理などを調査し、現状の問題点を指摘するとともに、その研究内容の途中段階で材料の適切な使用に向けての手引き書の必要性を提言し、その成果品である「都市景観パーツ活用ガイド全5巻」の編集・共同執筆の一部を担当した。またシンボルロード、駅前広場などの事例研究も担当するとともに、同研究会のアドバイザーの役割も継続している。



駅前広場調査シート例

担当: 中野、金光、押澤、萩尾

目次

- 第1編: 総論
1. 価値体系の大きな変化と街づくり 大野秀敏
  2. 我が国の住宅地計画にみる「まちなみ」論 中野恒明
  3. 現代日本における住宅のタイプ別、展開の方向性 大野秀敏
  4. 住宅地において目指すべきこれからのまちなみ 景観 西村幸夫
  5. 地域住宅づくりへの試み 岩田 司
  6. アクティビティデザインとしての町づくり 隈 研吾

第2編: 事例編

1. 住宅地における住環境、景観への取り組み
  - ①馬木北町(島根県出雲市)
  - ②備中足守(岡山県岡山市)
  - ③常盤台(東京都板橋区)
  - ④高層島第54(東京都日野市)
  - ⑤コンシティー星田(大阪府交野市)
  - ⑥茨城県菅代アパート(茨城県つくば市)
  - ⑦熊本県竜蛇平団地(熊本県熊本市)
  - ⑧岐阜県管住宅リフレッシュ事業(岐阜県)他

2. 地域景観に総合的に取り組む

- ①佐賀県有田町
- ②福島県三春町
- ③多摩ニュータウン唐木田地区(東京都多摩市)
- ④川越一番街(埼玉県川越市)
- ⑤麻張ハイタウンパティオス(千葉県千葉市)

3. 用途混合による住宅づくり

- ①代官山ヒルサイドテラス(東京都渋谷区)
- ②シニアドーム-相模原(計画)(神奈川県相模原市)他

付. 住環境良好化のための外部空間における手法

本調査は良質なまちなみ景観の形成に資する建築のあり方についての研究である。ここでは単体の建築の質的向上のみならず集団における調和や群としての形態・意匠の考え方、個から群の発想での建築設計教育や建築行政のあり方などについて議論し、その結果を担当者向けの手引き書—報告書としてまとめたものである。研究に際して委員会（委員長—布野修二 京都大学助教授〔当時〕）を設置し、作業班をアプルが担当し、総論及び事例編のとりまとめを行った。研究成果は1994（平成6）年、研究の追加改訂を経て「建築・まちなみ景観の創造」と題して出版された（技報堂出版）。



事例編の一部

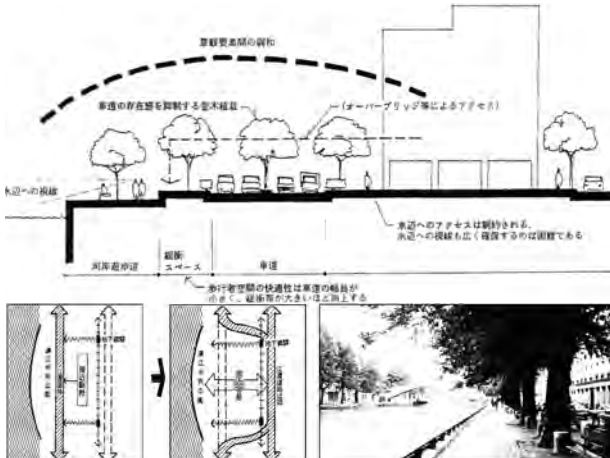
「建築まちなみ景観の創造」執筆者：総論—布野修二、大野秀敏、隈研吾、中野恒明 事例編—アプル総合計画事務所

担当：中野、松村、蒲岡

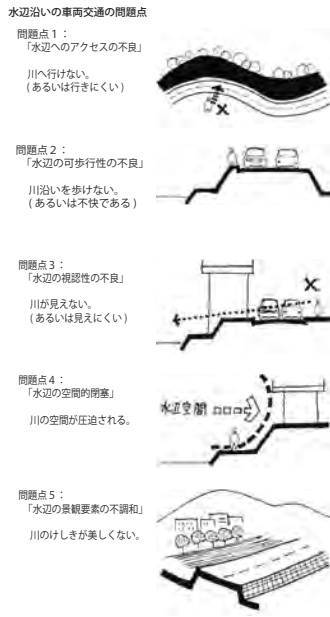


出版された「建築、まちなみ景観の創造」

水辺の景観整備への関心が高まっているが、その多くは河川敷内の修景にとどまりがちである。この調査はむしろ市街地と河川の関係に着目し、河川空間の市民利用の推進、一体的設計を図るべく、往々にして河川敷と市街地との間に存在する幹線道路を障害施設とならないように計画する、または改良する手法について、国内外の事例収集を目的としている。なおこの調査は財団の自主研究としてアプルに委託されたもので、「大地の川」「天空の川」の著者である関正和氏（当時センター研究員）との共同で取りまとめたものである。

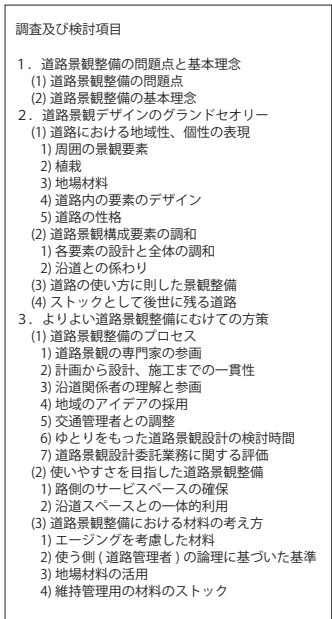


「漢江総合整備計画」で提案された沿川道路の回避 緑地による緩衝事例（パリ、サンマルタン運河）



担当：中野、小野寺

本調査は1989年（平成元）年度に委託された「道路景観整備の今後のあり方」を研究するための検討調査である。当時は公共空間とりわけ道路を対象に「景観」がキーワードとした整備事業が全国的に展開される一方で、先年に刊行された「道路景観整備マニュアル」の実施例の模倣や類似した形が出現するなどの問題指摘もされる状況下にあった。そこで国（建設省—当時）も本来の景観整備の基本理念や考え方をより浸透させることを目的として、調査研究がはじめられた。アプルは財団法人道路環境研究所のもとで委員会（道路景観整備のあり方検討委員会—委員長中村良夫 東京工業大学教授）への提示資料の作成、事例調査、報告書のとりまとめを担当した。報告書は全国の地方建設局、自治体等の担当者へ配付された。



担当：中野、松村、重山

歩車共存道路を住宅・都市整備公団の新設団地に導入するにあたっての計画設計指針の策定プロジェクトチームに参加した。当時、団地も駐車場保有率の増加に伴い、従来の歩車分離から、共存、融合へのシステム変更の必要性が生じていた。ここでは歩車共存型を導入した既存事例の調査、歩車共存の理念、用語の解説、計画方針から交通コントロールの手法解説、施設設計まで、広範な資料収集および作成、委員会（委員長—新谷洋二 東京大学教授〔当時〕）への提出、取りまとめを行ったものである。



プロジェクトチーム参加者：青木英明（財計計画研究所—当時）、久保田尚（東京大学都市工学科博士課程—当時・後に埼玉大学教授、日本都市計画学会会長を歴任） 担当：中野、北嶋

